



電子ブック

POWERCENTERの クラウド移行 から始める AI時代のクラウド モダナイゼーション

Where data
& AI come to **LIFE**



目次

AIブーム：データとAIが物ごとのやり方をすべて変えつつある	3	幅広い業界に広がるAIの影響	11
クラウドモダナイゼーションとAIの成功とのつながり	4	使用しているデータプラットフォームはAIに対応していますか？	12
AI時代で成功するためにクラウドへのモダナイゼーションが必要な理由	6	PowerCenterからクラウドへのモダナイゼーションが今必要な理由	14
データ、AI、クラウドの転換点	7	PowerCenterのモダナイゼーションから始めましょう	16
AIとクラウドモダナイゼーションの密接な関係	8	Informatica®について	17
強力なクラウドデータ基盤がモダンエンタープライズのAIをどのように強化するのか	9		

AIブーム：データとAIが物ごとのやり方をすべて変えつつある

データと人工知能（AI）の強力な組み合わせによって世界が急速に変わりつつあることは、誰の目にも明らかです。周囲を見渡すと、調査、ポリシー、イノベーションのあり方にデータが影響を与えていることが分ります。これにより、サプライチェーンのロジスティクスから小売店の適切な在庫、新薬の開発期限まで、あらゆることを改善できる可能性があります。サイバーセキュリティチームが人間よりも速く脅威に対応することを可能にするような高度なテクノロジーさえ生まれています。

このような環境で、企業はAIを利用してプロセスを自動化したり、新しいインサイトを取得したり、データを基にした提案を行ったりすることによって競争優位性を得ています。人工知能（AI）と機械学習（ML）は、幅広い業界においてイノベーションとトランスフォーメーションを促進する上でも重要です。例えば、ライフサイエンスにおいて新しい治療法を見つけたり、デジタル医療体験をパーソナライズしたり、金融サービスにおいて不正やリスクを軽減したりするのに役立つかもしれません。

生成AIが本来持ち合わせている遍在性も見逃せないポイントです。Gartner®によると、2026年までに80%以上の企業が生成AIアプリケーションプログラミングインターフェイス（API）や生成AIモデルを利用したり、運用環境に生成AI対応アプリケーションを導入したりします（2023年は5%未満）。¹

KPMGが2023年に実施した調査によると、77%のエグゼクティブが、生成AIを、将来利用する予定がある最も影響力のある新興テクノロジーであると見なしています。²

しかし、生成AIを動かす大規模言語モデル（LLM）の新しい世界では、データが総体的かつ高品質で、大規模に管理・統制されることが求められます。生成AIは、業界を問わず、中心となるワークフローやプロセスの見直しを促すものであり、根本的な変革の触媒となるものです。

問題は、AIからメリットを得られるかどうかではありません。問うべきは、レガシーインフラストラクチャが自社のAIイニシアチブの足かせになっていないかということです。AIを導入するとして、果たしてデータプラットフォームの準備は整っていますか？

¹ Gartner Press Release, **Gartner Says More Than 80% of Enterprises Will Have Used Generative AI APIs or Deployed Generative AI-Enabled Applications by 2026**, October 11, 2023. GARTNER is a registered trademark and service mark of Gartner, Inc. and/or its affiliates in the U.S. and internationally and is used herein with permission. All rights reserved.

² KPMG, Generative AI: From Buzz to Business Value, 2023.

クラウドモダナイゼーションとAIの成功 とのつながり

ビジネスリーダーは、AIのメリットを獲得するには、レガシーシステムを排除するか、モダナイズする必要があることを理解しているでしょう。そのため、AIは急速に企業が重要なアプリケーションをモダナイズすることを促す重要なテクノロジーになってきました。

AI/MLイニシアチブをすぐに進めたいと考えていても、まずクラウドに移行してモダナイズしなければ、逆効果となる恐れがあります。これには運用コストの増大やアジリティの低下、セキュリティリスクの高まり、イノベーションの機会の減少、コスト削減の失敗、拡張性の制限、およびその他の競争力の低下などが挙げられます。

しかし、クラウドへの移行は、各社に固有のニーズ、目的、制約事項に基づいて行われるべきです。クラウドの導入には、あらゆる組織に当てはまる汎用的なアプローチは存在しません。自社の戦略目標に沿って、情報に基づいた意思決定を行うには、潜在的なメリットとリスクを評価しなければなりません。

クラウドにモダナイズしなかった場合、以下のような結果につながり、AIプロジェクトの進行が妨げられる恐れがあります。

- **システムの互換性の欠如**: レガシーシステムにより、AIソリューションと既存のインフラストラクチャの統合が困難になり、その結果、データのサイロや非効率性が生じる恐れがあります。
- **データアクセスと統合が難しい**: AIはデータに大きく依存していますが、レガシーシステムからデータを抽出、変換、ロード (ETL) することは、時間がかかりミスが発生しやすい作業です。また、AIソリューションとレガシーシ

ステムとの統合には、拡張性のないカスタム開発作業が必要となる可能性があります。

- **データ品質の問題**: データストレージシステムが古い場合、重複や不一致、古い情報などの、**データ品質**の問題が発生する恐れがあります。データ品質が低いと、AIモデルが不正確なものになりかねません。
- **パフォーマンスのボトルネック**: レガシーハードウェアには、処理量が多いAIアルゴリズムを実行するための処理能力やメモリがなく、その結果、パフォーマンスが下がったり、処理時間が長くなったりする恐れがあります。
- **アジリティとイノベーションの低下**: 企業は変化するビジネスニーズや市場の動きに素早く適応する必要があります。しかし、レガシーインフラストラクチャによって、新しいサービス/アプリケーションを導入し、イノベーションを起こし、競争力を維持することが難しくなります。
- **メンテナンスおよび運用コストの増大**: オンプレミスデータセンターの維持にはハードウェア、ソフトウェア、エネルギー、人員などのリソースが伴うため、高いコストを要する場合があります。一方、クラウドでは**従量制の価格設定**や、スケールメリットにより、コストを抑制できる可能性があります。
- **非効率なプロセスとコストのかかるシステムのダウンタイム**: レガシーシステムでは、時間がかかるプロセスを手動で実行しなければならないため、自動化の導入やビジネスプロセスの最適化の妨げとなります。

クラウドモダナイゼーションとAIの成功 とのつながり (続き)

- **生産性の低下**: 古いインフラストラクチャでは、パフォーマンスが低下し、ダウンタイムが増え、その結果、従業員の生産性と顧客満足が低下する恐れがあります。
- **拡張性の限界**: レガシーインフラストラクチャは、素早く拡張してAIワークロードに対する需要の増大に対応できないため、AIイニシアチブを拡大する際のボトルネックとなる恐れがあります。
- **オンプレミスサポートの欠如**: テクノロジーベンダーが古い製品のサポートを段階的に終了するのに伴い、サポート、メンテナンス、アップデートのための公式のチャンネルがなくなり、レガシーインフラストラクチャの管理がいつそう難しくなる恐れがあります。また、古いテクノロジーを扱うITエキスパートを見つけるのが難しくなるかもしれません。
- **ソフトウェアの管理とアップデートが困難**: クラウドのような自動アップデートや自動メンテナンス機能がなければ、ソフトウェアやシステムを最新の状態に保つことが困難となり、脆弱性やパフォーマンスの問題が発生する恐れがあります。
- **セキュリティとコンプライアンスのリスク**: クラウドプロバイダーはセキュリティとコンプライアンス対策に多大な投資を行いますが、レガシーシステムでは、セキュリティ保護が弱くなり、サイバー脅威に対する脆弱性が高まる恐れがあります。また、レガシーシステムには、AIアプリケーションで使われる機密データの保護に必要な強固なデータセキュリティ機能が欠けている場合もあります。
- **データの冗長性とバックアップの課題**: レガシーシステムでは、手動バックアップを使っているかもしれません。手動バックアップは、クラウドにおける強固なデータ冗長性とバックアップオプションと比較して信頼性が低く時間がかかる場合があります。これにより、ハードウェアの故障、自然災害、人的ミスによるデータ損失のリスクが高まる恐れがあります。
- **コンプライアンスと法規制の課題**: 旧来のインフラストラクチャを使い続ける場合、業界や地域の法規制を遵守するために数多くの手作業が必要となる場合がありますが、多くのクラウドプロバイダーがこれを支援するツールやサービスを提供しています。
- **複雑性の増大**: 旧来のITインフラストラクチャの管理および維持作業は複雑なものになることがあります。クラウドなら、インフラストラクチャの管理を簡素化し、管理費を削減できます。
- **データ移行の課題**: データやプロセスをレガシーシステムからモダンAIソリューションに移行する作業は複雑でリスクが高く、データの損失、破損、互換性の問題が生じる恐れがあります。
- **ビジネス継続性のリスク**: レガシーシステムが古くなるのに伴い、予期しないシステム障害や停止のリスクが高まり、重要な業務の運用が混乱する恐れがあります。

AI時代で成功するためにクラウドへのモダナイゼーションが必要な理由

先頃インフォマティカが実施した調査によると、データリーダーの41%が1,000以上のデータソースに苦勞しており、79%が2024年にはその数がさらに増えると予測しています。³このようなデータの速度、量、種類のかつてない急増が、効率的なクラウドデータマネジメントに対する差し迫った需要を生んでいます。実際、同調査では、データリーダーの84%がAIのメリットを最大限に引き出すためにはレガシーデータインフラストラクチャをクラウドにモダナイズすることが不可欠だと確信しています。⁴

旧式のシステム、アーキテクチャ、ストレージ方法に依存する旧来のアプローチは、自社内のリソースに負担をかけ、コストを上昇させ、AI拡張のサポートも不足しています。AI搭載のクラウドネイティブ**データマネジメント**ソリューションがあれば、社内、社外、サードパーティのデータの可能性をフルに引き出して、新しいインサイトを取得することが可能になります。

データは、ビジネスにとって真の差別化要因になりうるものであり、イノベーションを加速させ、顧客との関係を深めるのに役立つAI/MLイニシアチブへの扉を開くものです。しかし、データのサイロや低いデータ品質によって、自社内の適切なユーザーに信頼できるデータを届けることが難しいことがあります。

³ Informatica, CDO Insights 2024: Charting a Course to AI Readiness.

⁴ 同上



データ、AI、クラウドの転換点

生成AIの登場により、企業はモダナイゼーションに向けた歩みを進める上で重大な岐路に立たされることになりました。これによって、ITインフラストラクチャに対するアプローチを根本的に変えなければ、他社に後れを取ることになってしまいます。

Salesforce社が行った調査では、アナリティクスとITリーダーの87%がAIの進歩によってデータマネジメントの優先度が高まっていると回答し、AIの出力結果の質は入力したデータの質に左右されると回答しています。⁵また、インフォマティカの調査では、生成AIを導入中または導入予定のすべてのデータリーダー（99%以上）が、データの品質（42%、米国は49%）やデータプライバシーと保護（40%）などの困難に直面しています。⁶

これらの課題を克服するには、データマネジメントインフラストラクチャをモダナイズして、AIイニシアチブにとってより適した環境を確立する必要があります。これには、ハードウェアのアップグレード、クラウドテクノロジーの導入、クラウドデータの統合、AIフレンドリーなデータストレージおよび処理ソリューションの導入などが含まれます。レガシーデータインフラストラクチャをモダナイズするのが早ければ早いほど、AIを活用する上で有利になります。

AIから最大限の価値を引き出すには、最適なデータ基盤が必要です。

以上の課題に対応するには、クラウドモダナイゼーション戦略を明確に定義し、オンプレミスのワークロードをクラウドネイティブのモダンなデータマネジメントプラットフォームにモダナイズするためのリソースを割り当てる必要があります。そして、リスクを最小化し、円滑に移行するためには、段階的なモダナイゼーションアプローチやハイブリッドソリューションを採用することが重要となる場合があります。

⁵ Salesforce, State of Data and Analytics, 2023.

⁶ Informatica, CDO Insights 2024: Charting a Course to AI Readiness.

AIとクラウドモダナイゼーションの密接な関係

AIとクラウドモダナイゼーションの統合は、ITリーダーとデータリーダーにとって戦略的な優先事項となりつつあります。先頃インフォマティカが行った調査によると、データリーダーの90%が、効率の改善、拡張性の向上、イノベーションの推進を目的としたモダナイゼーションを優先事項としています。⁷

クラウドモダナイゼーションとAIを組み合わせることによって、潜在的なパターン、未知のトレンド、複雑な相互関係を明らかにし、高い競争優位性を手に入れることができます。ただし、AIの有効性は、データの完全性とアクセス性にかかっています。だからこそ、AIの有効活用にとってクラウドモダナイゼーションが非常に重要になるのです。オンプレミスのワークロードをモダンデータプラットフォームへ移行することによって、データを構造化し、アクセス性を高め、AIアプリケーション対応にすることができます。クラウドモダナイゼーションによって、データを再配置するだけでなく、データの品質と完全性を改善し、より高度なAI利用の準備を整えることができます。

AI時代において競争力と俊敏性を維持するには、今すぐクラウドモダナイゼーションに着手し、データをAIイニシアチブにおけるボトルネックではなく資産にする必要があります。クラウドモダナイゼーションによって、AIモデルをトレーニングして導入するための高品質なリアルタイムデータを手に入れることができます。

⁷ Informatica, Insights from Informatica PowerCenter Customers: The State of Cloud Modernization Report 2024.



強力なクラウドデータ基盤がモダンエンタープライズのAIをどのように強化するのか

AIイニシアチブにとって、クラウドモダナイゼーションは不可欠な要素です。それには、効果的なAIソリューションの開発と展開に必要な、相互に関連しているいくつかの理由があります。具体的には、次のような理由です。

- **インフラストラクチャの拡張**: AIモデルとMLモデル、特に深層学習モデルでは、変動するコンピューティングリソースのニーズを満たす必要があります。クラウドインフラストラクチャは、必要に応じてスケールアップもスケールダウンもできるので、柔軟性を獲得し、コストとリソースの使用を制御できます。
- **急増するデータ量への対応**: AI、特に深層学習モデルをトレーニングするには大量のデータが必要で、拡張可能かつアクセス可能な形でデータを集約し、保存する必要があります。
- **データの統合**: さまざまな形式で、さまざまな場所にデータを保存している場合、AIアプリケーションでそれらのデータを活用することが難しくなります。クラウドモダナイゼーションでは、さまざまなデータソースからのデータを統合し、連結して、AIシステムがアクセスしやすいようにします。
- **データ品質の確保**: AIモデルの正確性は、供給されるデータの正確性によって決まります。クラウドモダナイゼーションにより、AIモデルのトレーニングに使用するデータの品質、関連性、最新性を確保できます。
- **リアルタイムデータの処理**: 多くのAIアプリケーションは、リアルタイムまたは準リアルタイムのデータを活用します。クラウドモダナイゼーションによって、生成されたデータを瞬時に収集および分析するデータパイプラインを確立できます。これは、予知保全、不正検出、動的価格設定、レコメンデーションシステムなどにとって必須です。
- **データの保存と管理**: クラウドでは、データレイクやデータウェアハウスなどのデータストレージの幅広いオプションが用意されており、AIモデルのトレーニングと実行に欠かせない大量の構造化、半構造化、非構造化データを処理することができます。
- **高度なAI／アナリティクスツールへのアクセス**: クラウドプロバイダーが提供する一連のAIサービスとプラットフォームにより、AIモデルの構築、トレーニング、導入を迅速に実行できます。これらのツールには、多くの場合、構築済みのモデルが付属しており、データサイエンティストや開発者にとって使いやすいうように設計されています。
- **コストの効率化**: AI向けのオンプレミスハードウェアへの投資はコストがかかり、多くの場合は非効率的です。必要となる容量を事前に予測して購入しなければならないためです。クラウドサービスは従量制またはサブスクリプションモデルを採用しているため、CAPEX（設備投資）をOPEX（運用コスト）に変え、リソースの浪費を最小限に抑えることができます。
- **短期間での導入**: クラウドにより、AIモデルの導入とイテレーションの期間を短縮して、容易に市場の変化に対応し、素早くAI機能を活用できます。

強力なクラウドデータ基盤がモダンエンタープライズのAIをどのように強化するか (続き)

- **意思決定とインサイト取得の迅速化**: データをモダナイズすると、AIによるデータの取得と利用を迅速化して、大量のデータを素早く処理し、実行可能なインサイトを取得できます。その結果、迅速に意思決定を行い、顧客の行動を理解し、手動では見出すことが難しいトレンドを特定することができます。
- **コラボレーションの強化**: モダンなクラウド環境により、チーム間のコラボレーションを改善し、データサイエンティスト、エンジニア、アナリストがスムーズに協働できます。
- **大規模なパーソナライズ**: AI搭載のアルゴリズムによって、顧客の好みに合わせて製品、サービス、コンテンツをカスタマイズし、顧客体験を強化し、エンゲージメントを増やすことができます。
- **グローバルリーチの強化**: クラウドプラットフォームは世界規模で利用可能なので、AIソリューションを導入して、低いレイテンシと高いパフォーマンスで世界中のユーザーにサービスを提供できます。
- **エコシステムとの統合**: クラウドは、サービスとAPIの豊富なエコシステムを提供しているため、AIを他のシステムやデータソースに容易に統合して、高度なソリューションの開発を整流化できます。
- **セキュリティとコンプライアンスの確保**: クラウドプロバイダーはセキュリティとコンプライアンス対策に多額の投資を行っているため、大規模な追加投資なしに強力なデータ保護を獲得し、規制要件を満たすことができます。
- **高可用性と信頼性の実現**: クラウドプラットフォームは、複数の場所にデータを複製し、高可用性と信頼性を実現するように設計されているため、最大限のアップタイムと最小限の中断でAIアプリケーションを実行できます。

上記の理由により、AIを最大活用するためにはクラウドモダナイゼーションが不可欠です。クラウド機能を活用することによって、自社のITインフラストラクチャの制限に縛られることなく、AIによるイノベーションおよび問題解決に集中することができます。

幅広い業界に広がる AI の影響

AIは、幅広い業界に大きな影響を与えつつあり、自動化、深いインサイト、プロセス最適化などが定着しています。さまざまな業界におけるAI導入の促進要因とビジネス成果のいくつかを以下に示します。

- **リスクの軽減**: 金融サービスにおける不正検知や製造業における予知保全など、AIによってリスクを特定し、軽減できます。
- **カスタマーサービスの向上**: チャットボット、仮想アシスタント、AIドリブンカスタマーサポートシステムは、24時間365日の支援を提供し、一般的な問い合わせに回答し、必要に応じて人間のエージェントに問題を転送します。
- **予測分析**: AIによって将来のイベントと結果を予測することで、市場の変化、需要の変動、その他のトレンドを予測できます。
- **医療およびライフサイエンスにおけるイノベーション**: AIが、病気の診断、医療画像の分析、可能な治療の発見、患者の転帰の改善、医療コストの削減を支援します。
- **サプライチェーン業務の最適化**: AIによってサプライチェーンのロジスティクスを最適化することで、在庫費用を削減し、配達時間を改善し、輸送費用を最小化できます。
- **コンプライアンスとセキュリティの確保**: AIによって脅威と脆弱性を特定することで、セキュリティを強化できます。また、業界固有の規制や標準を遵守することもできます。
- **人事や人材管理の刷新**: AIが、人事関連の意思決定に役立つデータドリブンなインサイトを提供することによって、人材の獲得、従業員の維持、業績管理を支援します。
- **持続可能性や環境への影響の軽減**: AIによって、エネルギー消費、廃棄物管理、リソース割り当てを最適化することで、環境への影響を軽減できます。

このように業界を問わず、AIによって業務の簡素化、顧客体験の改善、イノベーションの促進において、真の意味での違いを生むことができます。

使用しているデータプラットフォームはAIに対応していますか？

AIの活用に欠かせない主要なデータマネジメント機能

AIを最大活用するために最適な形でサポートするには、いくつかの重要な機能を備えたモダンデータマネジメントプラットフォームを通じて、データのアクセス性と信頼性を確保し、AIアプリケーションに適したものにする必要があります。例えば次のような機能です。

- **データ統合**: データベース、データレイク、外部API、ストリーミングデータなど、さまざまなソースのデータを統合できるデータマネジメントプラットフォームが必要です。また、データのETL処理をシームレスに実行できる必要があります。
- **データ品質とデータガバナンス**: データを正確で、整合性があり、エラーがないものにするには、強力なデータ品質機能が不可欠です。データガバナンスツールによって、データの整合性を維持し、適用される規制を遵守できます。
- **データカタログとメタデータマネジメント**: データカタログによって、ユーザーは組織内のデータ資産を発見、理解、アクセスすることができます。メタデータマネジメント機能によって、データリネージを追跡し、データ使用のコンテキストを提供することができます。
- **拡張性**: AIイニシアチブの拡大に伴って増え続けるデータ量とワークロードを処理できるデータマネジメントプラットフォームが必要です。拡張性を備えたプラットフォームがあれば、データ要件が増大してもパフォーマンスは低下しません。
- **リアルタイムデータ処理**: AIの使用事例において、分刻みで最新のインサイトやアクションが必要となる場合は、リアルタイムのデータインジェクション、処理、分析機能を備えたプラットフォームが必要です。
- **データセキュリティとコンプライアンス**: AIアプリケーションで機密データを保護するには、暗号化、アクセスコントロール、監査など、強力なセキュリティ機能が不可欠です。プラットフォームは、業界固有の規制（GDPR、HIPAAなど）への遵守を支援するものである必要があります。
- **データアクセスとAPI**: データヘブプログラム的にアクセスするためのAPIとツールを備え、AIアルゴリズムおよびアプリケーションとシームレスに統合できるプラットフォームが必要です。
- **データ変換と特徴量エンジニアリング**: データクレンジング、変換、特徴量エンジニアリング用のツールは、AIモデルのトレーニング用データを準備するのに役立ちます。データを機械可読な形式で、AIタスクに関連したものにする上で、これらの機能は必須です。
- **コラボレーションおよびデータ共有**: データ共有やアクセスコントロールを促進することによって、チームやステークホルダー間でのコラボレーションをサポートし、AIプロジェクトでの共同作業を容易にするプラットフォームが必要です。
- **データのバージョン管理とデータリネージ**: データのバージョン管理とリネージ追跡機能により、データの変更と、その変更がAIの出力結果に与える影響を追跡することで、AIモデル開発の透明性と再現性を確保できます。

使用しているデータプラットフォームはAIに対応していますか？(続き)

AIのサポートに欠かせない主要なデータマネジメント機能

- **データストレージのオプション**: データレイク、リレーショナルデータベース、NoSQLデータベースなど、多様なデータストレージオプションをサポートし、固有のニーズに最適なストレージを選択できるプラットフォームが必要です。
- **データの移植性**: データインフラストラクチャの柔軟性を確保するためには、オンプレミス環境とクラウド環境間、またはクラウドプロバイダー間でデータを移動できることが必須です。
- **自動データパイプラインオーケストレーション**: 自動ワークフローとデータパイプラインオーケストレーション機能によって、データ処理と変換タスクを整流化して、手作業やエラーを減らすことができます。
- **機械学習の統合**: 機械学習プラットフォームおよびライブラリ (TensorFlow、PyTorchなど) との統合によって、AIモデルの開発と展開を簡素化できます。
- **モニタリングとアラート**: データ品質、パフォーマンス、セキュリティをモニタリングし、問題が発生した場合にアラートを通知するプラットフォームが必要です。
- **アナリティクスとレポート**: あらかじめ組み込まれたアナリティクスおよびレポート作成ツールによって、ユーザーはデータからインサイトを取得し、AIモデルのパフォーマンスを追跡できます。
- **コスト管理**: コスト最適化機能によって、特にクラウドベースの環境におけるデータ関連費用を管理できます。
- **API管理**: AIの利用のためにデータをリスクにさらす場合、API管理機能は必須です。API管理機能によって、アクセスを制御し、データの使用をモニタリングできるからです。

AIを効果的に活用するためには、これらの重要な機能を備えたモダンでクラウドネイティブなデータマネジメントプラットフォームを選ばなければなりません。

PowerCenterからクラウドへのモダナイゼーションが今必要な理由

PowerCenterは長年にわたり、オンプレミスのデータ統合やデータマネジメントにおいて信頼できる基盤として使われてきました。しかし、今は「クラウドファースト」戦略に沿ってデータ統合／マネジメント戦略を見直す絶好のタイミングです。

AI/MLイニシアチブを実行して拡張していきたいけれどもワークロードの大部分がオンプレミスにあるという場合、インフォマティカがその実現をサポートします。AIの能力を最大活用するための歩みは、PowerCenterのモダナイゼーションから始まります。

モダンデータマネジメントプラットフォームによって、データのアクセス性が向上し、AI/MLアルゴリズムに必要な大規模で多様なデータセットを処理できるようになります。PowerCenterのモダナイゼーションにより、クラウドネイティブな**Informatica Intelligent Data Management Cloud™** (IDMC) に移行して、次世代のデータマネジメントソリューションを導入することで、システムの拡張性と柔軟性を高めて、リアルタイム処理を実行できるようになります。

PowerCenterからクラウドへのモダナイゼーションによって、クラウドサービスとの統合を改善し、柔軟性、AIサービスにおけるイノベーション、従量制の価格設定モデルなどのメリットを利用することができます。クラウドモダナイゼーションを計画する際は、最大限の価値を引き出せるようにすることが重要なのです。

PowerCenterのモダナイゼーションによって、データ品質、統合、アクセス性、ガバナンス、拡張性、リアルタイム処理、探索のための確固としたクラウドネ

イティブのデータ基盤を構築できます。さらに、AIに必要な高度なアナリティクスをサポートするデータプラットフォームを準備し、結果としてAIの可能性を最大限に引き出し、データから価値あるインサイトを引き出すことができます。

Informatica Intelligent Data Management CloudによってデータプラットフォームをAI対応に

AIをデータマネジメントのコパイロットとして活用し、生成AIを活用してデータマネジメントを簡素化すれば、データのエンジニアリング、品質、オブザーバビリティ（可観測性）、カタログ化、ガバナンス、マスターデータマネジメント（MDM）に関する提案やインテリジェントな自動化を通じて、旧来のアプローチを一新できます。

AIを活用したデータマネジメントを実現するには、データマネジメントのバリューチェーン全体（データの探索、配信、利用）にわたってインテリジェンスを連携および促進するための、統合メタデータの強力な基盤が必要です。メタデータドリブンなAIエンジンである**CLAIRE®**を搭載したIDMCは、拡張性と効率的に優れた、エンドツーエンドの統合型データマネジメントソリューションです。

35 PB（ペタバイト）超の統合アクティブメタデータを基盤とする**CLAIRE®**をAIコパイロットとして利用することで、AIを活用してデータマネジメントに関するインサイトを取得し、データの探索、統合、品質、ガバナンス、MDMを大幅に高速化できます。

PowerCenterからクラウドへのモダナイゼーションが 今必要な理由 (続き)

CLAIREの生成AIバージョンである**CLAIRE GPT**は、自然言語インターフェイスによってデータマネジメント体験をさらに変革・刷新します。データアクセスとデータマネジメントを劇的に簡素化するCLAIRE GPTにより、データの民主化を推し進め、データチームの生産性を飛躍的に高めることができます。

包括的かつクラウドネイティブなデータマネジメントソリューションのIDMCにより、AIを活用して複数のシステム、アプリケーション、環境にわたってデータを管理、統制、統合、分析できます。IDMCのCLAIREにより、AIとMLを活用して、さまざまなデータマネジメントタスクを強化できます。IDMCによるAIの活用例を以下に示します。

- **データディスカバリとカタログ化の自動化** : IDMCは、AIを活用して組織全体のデータ資産を自動的にスキャンしてカタログ化し、それらの資産を分類・整理して、簡単にアクセスおよび管理できるようにします。
- **データ品質とデータガバナンス** : IDMCのAI/ML機能は、データ品質の問題を示している可能性がある異常値、外れ値、パターンを自動的に検知するので、データ品質を改善できます。また、潜在的な修正点を提案し、ガバナンスポリシーが一貫して適用されるようにします。
- **データ統合およびオーケストレーション** : IDMCは、AIを活用して、データ統合タスクを自動化および最適化します。これにより、手動での介入の必要性の少ない、効率的なデータパイプラインを構築できます。また、さまざまなシステムやクラウド環境のデータフローをオーケストレーションします。
- **予測分析とインサイト** : IDMCが提供する予測的インサイトと提案に基づいて、メタデータ、使用パターン、データリネージを分析することで、データマネジメントとガバナンスに関する意思決定をプロアクティブに行えます。

- **データの360度ビュー** : IDMCは、AIを活用して顧客データや製品データなどの包括的なビューの作成を支援します。これにより、アナリティクスと意思決定を改善できます。
- **プライバシーとセキュリティコンプライアンス** : IDMCのAIドリブンな分類とリスク評価により、機密データがどこに存在し、どのように使用されるかをより詳細に把握し、プライバシー規制を確実に遵守できます。
- **異常検知** : AIアルゴリズムが、異常な挙動がないかデータをモニタリングし、データ品質、セキュリティ侵害、不正行為に関わる潜在的な問題を通知します。
- **データのエンリッチ化** : IDMCのAI機能が追加の属性や関係を推測することで、データを強化できます。これにより、アナリティクスモデルやAIアプリケーションの価値をさらに高めることができます。
- **プロセスの自動化** : IDMCのAIを活用した自動化プロセスにより、反復的なデータマネジメントタスクを整流化し、手作業を減らし、効率性を改善できます。
- **自己調整と最適化** : IDMCのAI/MLアルゴリズムは、データ処理を継続的にモニタリングし、データパターンや業務要件の変更に基づいてデータ処理が最適な形で実行されるように調整します。

AI搭載のIDMCは、学習、適応、インテリジェントな提案を通じて、データマネジメントの効率向上を支援します。また、IDMCにより、業務上の価値を高める新しいAI/アナリティクスアプリケーションの開発など、戦略的なイニシアチブに集中できます。

PowerCenterのモダナイゼーションから始めましょう

効果的なクラウドモダナイゼーションは、データドリブンな意思決定を可能にする上で基本的な役割を果たします。データを再配置するだけでなく、データの品質と完全性を改善して、より高度なアナリティクスやAI活用に備えることができます。

モダンでクラウドベースのデータマネジメントプラットフォームには、旧式のデータマネジメントテクノロジーにはない、いくつかの利点があります。これらのプラットフォームはデータの品質を高め、データセキュリティを強化し、拡張性を向上させます。さらに、AIアプリケーションに欠かせないリアルタイムデータ処理をサポートします。オンプレミスのデータプラットフォームをクラウドへ移行してモダナイズすることで、データプラットフォームをAI対応に変え、リアルタイムの高度なアナリティクスを実行することが可能になります。

IDMCの詳細は[こちら](#)をご覧ください。また、モダナイゼーションを始める手順の詳細は[PowerCenterモダナイゼーションページ](#)をご覧ください。



企業情報

インフォマティカ (NYSE: INFA) は、データとAIが持つ変革の力を形にするための支援を通して、企業の最重要資産であるデータとAIに命を吹き込んでいます。データの価値を適切に引き出して信頼できるリソースとして活用することで、組織全体でデータを民主化し、混沌とした環境から明瞭な環境へと変革できます。多くの企業が、Informatica Intelligent Data Management Cloud™ (IDMC) を使用してデータに命を吹き込むことで、壮大なアイデアを促進してプロセスを改善し、コストを削減しています。AIエンジンのCLAIRE®を搭載したIDMCは、タイプ、パターン、複雑さ、ワークロード、場所を問わず、あらゆるデータを1つのプラットフォームで管理できる唯一のクラウドです。

IN19-4681-0424

© Copyright Informatica LLC 2024. Informatica、Informaticaロゴは、米国およびその他の国におけるInformatica LLCの商標または登録商標です。インフォマティカの商標の最新版は、<https://www.informatica.com/jp/trademarks.html>をご覧ください。その他すべての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。本文書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、現状のまま提供され、明示または黙示を問わず一切の保証を伴いません。

[informatica.com/jp](https://www.informatica.com/jp)

Where data & AI come to



〒105-6226 東京都港区愛宕2-5-1
愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階
電話：03-6403-7600（代表）
FAX：03-3433-1021

[informatica.com/jp](https://www.informatica.com/jp)
twitter.com/informaticajpn

お問い合わせ